

## 2. Well-being関連の取組・予算

		事業名	現状・取組	予算額 ※R5予算については 概算決定額
1	内閣官房	人々のつながりに関する基礎調査（孤独・孤立の実態把握に関する全国調査）	<p>【現状】</p> <p>16歳以上の個人2万人を対象に「孤独感」に関する以下の質問を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたは、自分には人とのつきあいがいないと感じることがありますか。（間接質問/UCLA孤独感尺度3項目版）</li> <li>・あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。（間接質問/UCLA孤独感尺度3項目版）</li> <li>・あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。（間接質問/UCLA孤独感尺度3項目版）</li> <li>・あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（直接質問）</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目を含め調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.4億円</p> <p>【R5】0.4億円</p>
2	内閣府	満足度・生活の質に関する調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活満足度(10点満点)、分野別満足度（健康、社会とのつながり等）を調査し、満足度に関係の深い客観指標を分析。</li> <li>・11分野の主観的Well-being指標（生活満足度等）と客観指標からなる「満足度・生活の質を表す指標群（Well-beingダッシュボード）」を公表。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン調査に加えて郵送調査の試行的な実施を検討。</li> </ul>	<p>【R4】0.4億円</p> <p>【R5】0.3億円</p>
3	内閣府	少子化社会対策に関する意識調査	<p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代を含めた国民に対して、少子化施策についての満足度やニーズを調査し少子化施策の進捗状況等を把握する。</li> </ul> <p>※こども家庭庁設立準備室が要求する他の事業経費の一部で実施</p>	<p>【R5】-億円</p>

4	内閣府	子供・若者の意識等に関する調査	<p><b>【現状】</b></p> <p>①子供・若者の意識に関する調査（約3年ごと：直近では令和元年度）  ・web調査により自己肯定感、生活充実度、将来への希望、社会貢献意欲、居場所と感ずる場所等を調査。</p> <p>②若年世代の意識に関する国際比較調査（約5年ごと：直近では平成30年度）  ・web調査により、人生観、社会観、職業、学校、家庭に係る認識等を調査。</p> <p>③ひきこもりに関する調査  ・調査員による訪問留置・訪問回収により、ひきこもりに関する調査を実施。  ・若年世代対象の調査を平成21,27年度、中高年世代対象の調査を平成30年度に実施。</p> <p>④子供・若者白書  ・令和元年版子供・若者白書の特集において、平成30年度に実施した「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（上記②）及び「生活状況に関する調査」（上記③）の結果について分析。  ・令和2年版子供・若者白書の特集において、令和元年度に実施した「子供・若者の意識に関する調査」（上記①）の結果について分析。  ・令和3年版子供・若者白書において、Well-beingの観点も踏まえて参考指標を分析・整理した「子供・若者インデックスボード」を掲載。</p> <p><b>【今後】</b></p> <p>①・③こども・若者の意識と生活に関する調査（子供・若者総合調査）  令和4年度より、①と③の調査を統合し、自己肯定感や居場所に関する認識など意識面の調査と、ひきこもり等の行動面との調査を総合的に実施し、より多面的な分析を予定。（以後、3年ごとに実施予定）  ※令和5年度以降はこども家庭庁において実施予定</p> <p>②若年世代の意識に関する国際比較調査（令和5年度に次回調査を実施予定。）  ※令和5年度以降はこども家庭庁において実施予定</p> <p>④子供・若者白書  ・実施した統計・調査について分析を加え白書及びホームページ等において解説・紹介。  ・収集・分析した子供・若者に関する各種データについては、「子供・若者インデックスボード」の改訂や、ホームページでのグラフィカルな情報提供、ジュニア版白書の作成に活用予定。</p>	<p><b>【H30】</b>  ②0.1億円  ③0.3億円（中高年世代対象の調査）</p> <p><b>【R1】</b>  ①0.1億円</p> <p><b>【R3】</b> -</p> <p><b>【R4】</b> 0.7億円</p> <p><b>【R5】</b> -</p>
---	-----	-----------------	--	---

5	内閣府	高齢者対策総合調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会対策大綱に沿ったテーマについて5年毎のサイクルで高齢者の意識や実態等について調査を実施。令和4年度においては、高齢者の健康に関する調査を実施しており、その中において日常生活における生活満足度や生きがい等を調査。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度については、具体的な調査項目は今後検討。</li> </ul>	<p>【R4】0.1億円</p> <p>【R5】0.1億円</p>
6	内閣府	ムーンショット型研究開発制度	<p>【現状】</p> <p>超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標を国が設定し、挑戦的な研究を推進するムーンショット型研究開発制度において、「Human Well-being」（人々の幸福）を目指し、目標1「人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会」の中で脳波情報に基づく精神状態の把握に関する研究や目標9「こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会」の中で生体情報等に基づく「こころ」の状態の解明に関する研究などを実施予定。</p> <p>【今後】</p> <p>引き続き、「Human Well-being」（人々の幸福）に資するムーンショット目標1及び目標9の研究を実施予定。</p>	<p>【H30補正】800億円（基金）の内数</p> <p>【R1】16億円（基金）の内数</p> <p>【R2】16億円（基金）の内数</p> <p>【R3】16億円（基金）の内数</p> <p>【R3補正】680億円（基金）の内数</p> <p>【R4】30億円（基金）の内数</p> <p>【R5】30億円（基金）の内数</p>
7	内閣府	子供の生活状況調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や家庭の現在の生活・経済状態、将来の貧困に影響を与える可能性のある行動実態、子供の貧困対策に関連する施策の利用状況等を把握することを通じ、子供の貧困対策を進めるに当たっての課題や施策の効果等を確認するための基礎資料を得ることを目的とした調査。</li> <li>・郵送及びオンラインにより、全国の中学2年生の子供及び保護者（5,000組）を対象に、令和2年度に調査を実施。</li> <li>・令和3年12月24日に、「令和3年 子どもの生活状況調査の分析 報告書」を公表した。</li> </ul>	<p>【R2】0.2億円</p> <p>【R3】0.2億円</p> <p>【R4】-</p> <p>【R5】-</p>

8	内閣府	国民生活に関する世論調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の生活にどの程度満足しているか等について調査（「満足」「まあ満足」等の選択肢）。</li> </ul>	<p>【R4】1.6億円の内数</p> <p>【R5】1.6億円の内数</p>
9	内閣府	スマートシティ推進に関する評価指標の検討	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートシティ施策に関する政策目標やKPIは、科学技術・イノベーション基本計画や改革工程表2022等に位置づけられており、評価枠組の全体像や評価指標の設定指針もとりまとめられている。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記評価枠組や評価指標について、随時、見直しや改善に努める。</li> </ul>	<p>【R4】-</p> <p>【R5】-</p>
10	消費者庁	消費者意識基本調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者白書に活用することを目的に、アンケート（標本数10,000人）によって、消費者の日常の消費生活における意識や行動、消費者事故・トラブルの経験等の調査を実施。</li> <li>・例年実施しており、調査内容は年によって異なるが、令和3年度に実施した調査では、「生活の満足度」、「生活の程度」を調査項目として設定し、その結果を令和4年版消費者白書に活用。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に実施した調査においても、「生活の満足度」、「生活の程度」を調査項目として設定し、その結果を調査分析する予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.2億円の内数</p> <p>【R5】0.2億円の内数</p>
11	デジタル庁	地域幸福度（Well-Being）指標管理システム	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種統計データを指標化し、分野間などの比較に用いる客観指標と、市民等へのアンケート調査結果を指標化し、時系列での比較に強い主観指標の二つの指標を用意。</li> <li>・令和4年7月から、基本的なデータや計測ツールについて提供を開始。</li> <li>・「令和3年度補正予算デジタル田園都市国家構想推進交付金デジタル実装タイプType2/3」により、採択27自治体の地域幸福度（Well-Being）指標活用を推奨するとともに活用自治体の拡大を推進している。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域幸福度（Well-Being）指標の継続的改善を行うとともに、計測ツール等の提供内容の充実を図る。</li> </ul>	-

12	総務省	生活の質を示すアウトカム指標として活用されている調査の実施	<p>【現状】 総務省では、生活満足度など主観をとらえる調査ではないが、生活の質を示すアウトカム指標として活用されている調査を実施。</p> <p>【今後】 引き続き、統計データを提供。</p>	-
13	総務省	統計調査の審査・調整及び統計作成の支援	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計法の規定に基づき、各府省が行う統計調査（注）について、統計技術的に合理的なものであるか、他の統計調査との重複がないか等の観点から審査・調整。</li> </ul> <p>（注）客観的事項に関する調査を行うものを指す。主観的事項に関する調査のみを行うもの（意識調査など）は含まれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計の専門機関である総務省は、中央統計機構として、統計技術的な観点から助言を行うなど、各府省の統計作成を支援。</li> </ul> <p>【今後】 引き続き、Well-beingに関する取組に資することができるよう、内閣府をはじめ関係府省と協力</p>	-
14	総務省	調査研究の活用	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究について、総務省ではWell-beingに関する定期的なものはないが、調査研究を行う際は、Well-beingの観点から活用。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き調査研究を行う際は、Well-beingの観点から活用されるよう期待し、必要な協力を行う。</li> </ul>	-

15	文科省	全国学力・学習状況調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組を通じた教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、全国の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒約200万人を対象に、教科に関する調査、質問紙調査を毎年実施。</li> <li>・質問紙調査において、学習環境等とともに挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関する項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】 36.7億円</p> <p>【R5】 39.4億円</p>
16	文科省	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、改善をはかるなどを目的として、小学校5年生、中学校2年生の全児童生徒（約200万人）を対象に実技調査と運動習慣等のアンケート調査を実施。</li> <li>・運動・スポーツや体育授業の大切さ、嗜好性、充実感（楽しいかどうか、またなぜ楽しいのかの理由）、積極性（進んで学習しているかどうか）、学習度合い（体育授業の目標を理解し、習得しているかどうか）等の項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】 2.3億円</p> <p>【R5】 2.2億円</p>
17	文科省	文化芸術による子供育成推進事業に関する調査研究	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の芸術教育の発展に向けた検討のため、全国向けのアンケート調査、文化芸術による子供育成推進事業に参加する学校を対象としたヒアリング調査等を実施。アンケート調査の中で、全国の小学校・中学校における子供の文化芸術の鑑賞・体験機会の状況、効果を調査研究。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目も含めて調査研究を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】 55.5億円の内数</p> <p>【R5】 55.5億円の内数</p>

18	文科省	21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀の初年に出生した子供の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、子供や若者を取り巻く環境が、その後の進路選択等に与える影響を明らかにすることを目的として、全国の平成13年1月10～17日の間及び同年7月10～17日に出生した子とその保護者（約30,500人）に毎年調査を実施。</li> <li>・平成29年の第16回調査以降、パーソナリティ特性（人格）、グリット（我慢強さ）、自尊感情、レジリエンス（復元力）等に関する項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.7億円</p> <p>【R5】0.6億円</p>
19	文科省	体力・運動能力調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得ることを目的として、小学生（6～11歳）、中学生～大学生（12～19歳）、成年（20～64歳）、高齢者（65～79歳）に対してアンケート調査を実施。</li> <li>・このうち、成年（20～64歳）と高齢者（65～79歳）には、毎日の生活の充実度や運動・スポーツのストレス解消効果について、4段階の項目を設定（標本数：20～64歳は33,840人、65～79歳は5,640人）。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目を含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.1億円</p> <p>【R5】0.1億円</p>
20	文科省	スポーツの実施状況等に関する世論調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの実施状況等に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とすることを目的として、18～79歳の男女40,000人を対象にアンケート調査を実施。</li> <li>・自身の最近の健康状態（5段階）やこの1年間でスポーツを実施した理由（楽しみ・気晴らしとして等）、現在のスポーツ実施頻度の満足度（4段階）、スポーツが個人や社会にもたらすと思う効果（精神的な充足感等）、日常生活での満足度（5段階）等の項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記の項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.04億円</p> <p>【R5】0.04億円</p>

21	文科省	障害児・者のスポーツライフに関する調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的として、7歳以上の障害者男女又はその家族約5,000人程度を対象に調査を実施。</li> <li>・スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的（気分転換・ストレス解消、楽しみのため等）やスポーツ・レクリエーションをやってよかったこと（ストレスが解消される、自信がついた、性格が明るくなった、体を動かすこと自体が楽しい等）、運動・スポーツがもたらすと考えられるもの（精神的な充足感、達成感の獲得、豊かな人間性、リラックス・癒し・爽快感、夢と感動等）等の項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記の項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】 0.05億円</p> <p>【R5】 0.08億円</p>
22	文科省	文化に関する世論調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化に関する国民の意識を調査し、文化施策の参考とすることを目的として、文化芸術の鑑賞活動、鑑賞以外の文化芸術活動、子供の文化芸術体験、地域の文化的環境、文化芸術振興に対する寄付に関する意識、文化芸術の振興と効果、文化芸術の国際交流・発信等を毎年調査。</li> <li>・令和3年度においては、人々の幸福感等についての調査項目を設定。文化芸術の鑑賞活動等との関係を調査。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に行う文化芸術推進基本計画の改訂を通じ、今後の調査方針を検討。</li> </ul>	<p>【R4】 0.2億円の内数</p> <p>【R5】 0.2億円の内数</p>
23	文科省	青少年の体験活動等に関する意識調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の体験活動等や自立に関する意識等の実態について把握することを目的として、全国の小学生（児童、保護者）、中学生、高校生の約3万人に対してアンケート調査を実施。</li> <li>・体験活動等の効果を分析するため、自己肯定感や道徳観・正義感等に関する項目を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、上記項目も含めて調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】 84.1億円の内数</p> <p>【R5】 79.5億円の内数</p>



24	厚労省	健康日本21	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民が主体的に取り組める国民健康づくり運動として、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を2000年度より開始した。2013年度からは、「21世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21）」を推進している。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、国民健康づくり運動を推進し、健康寿命の延伸及び健康寿命の都道府県格差縮小を図る。</li> </ul>	<p>【R4】 16.0億円</p> <p>【R5】 15.8億円</p>
25	厚労省	次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国民生活基礎調査」のデータを用いて、健康寿命の算出を3年に一度行っている。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、健康寿命の算出を行う。</li> </ul>	<p>【R4】 1.4億円の内数</p> <p>【R5】 1.4億円の内数</p>
26	厚労省	国民生活基礎調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査では、「次期健康づくり運動プラン作成と推進に向けた研究」で用いるため、3年に1度、以下の質問に対する回答を集計している。</li> <li>○客観的指標：「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか」</li> <li>○主観的指標：「あなたの現在の健康状態はいかがですか」</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、調査を実施し、上記データの集計を続ける。</li> </ul>	<p>【R1】 6.2億円 (令和元年は前回大規模調査年)</p> <p>【R4】 7.2億円 (令和4年は3年に一度の大規模調査年)</p>

27	厚 労 省	ヤングケアラー の実態に関する 調査研究	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」を実施（R2, 3年度）。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集中取組期間（R4～R6年度）以降、フォローアップの調査を実施する。</li> </ul>	-
28	厚 労 省	自殺統計	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察庁自殺統計原票データを元に厚生労働省にて集計している。</li> <li>・「自殺統計」と「人口動態統計」を元に、人口10万人当たりの自殺者数（自殺死亡率）をKPIとして設定している。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、自殺者数（自殺死亡率）の集計を続ける。</li> </ul>	-
29	厚 労 省	労働経済白書	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和3年版労働経済の分析（労働経済白書）」において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後の賃金の満足度等について分析を行っている。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白書のテーマによるため未定。</li> </ul>	-

30	厚労省	雇用の構造に関する実態調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査は、毎年テーマを変えて実施しており、令和2年転職者実態調査、令和元年就業形態の多様化に関する総合実態調査、平成30年若年者雇用実態調査、平成27年転職者実態調査等において、労働者の「仕事の内容・やりがい」等の満足度に対する回答を集計している。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同様のテーマの調査を実施した際、上記データの集計を続ける。</li> </ul>	<p>【R4】0.4億円</p> <p>【R5】0.4億円</p>
31	農水省	食育に関する意識調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郵送及びインターネットによる調査（約5,000人を対象。令和3年度の回収率は48.9%）により、第4次食育推進基本計画で掲げられている目標に係る項目を始めとして、目標に関連した食に関する意識や行動の実践状況を把握するとともに、社会的な要因等が国民の食育に関する意識にどのような影響を及ぼしているかを明らかにするための調査を実施。</li> <li>・主観的Well-beingに関連する調査項目としては、家族と一緒に食べる頻度、農林漁業体験の参加の有無、食生活の状況等がある。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、食育推進基本計画の目標値の把握等のため調査を継続予定。</li> </ul>	<p>【R4】0.7億円の内数</p> <p>【R5】0.7億円の内数</p>
32	経産省	フェムテック等サポートサービス実証事業補助金	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月経、妊娠・出産、更年期等ライフイベントに起因する望まない離職等を防ぐため、企業や医療機関、自治体等が連携して、働く女性に対しフェムテックを活用したサポートサービスを提供する実証事業を実施。</li> <li>・令和4年度は19事業を採択。全事業において、世界保健機関の「健康と労働パフォーマンスに関する質問票」の一部を用いて事業実施の前後で主観的Well-beingの変化を測り、効果検証することとしている。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事業で測定した主観的Well-beingの変化も鑑みつつ、より女性の健康課題の解決に資する実証事業の採択を目指す。</li> </ul>	<p>【R4】6.5億円の内数</p> <p>【R5】6.0億円の内数</p>

33	経産省	健康経営度調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が将来的に収益性等を高めるための投資であるという観点で、従業員の健康保持・増進に向けた企業の取組である「健康経営」について実施状況の調査を実施（R3年度は約2,900社が回答）。当該調査結果を活用し、「健康経営優良法人認定制度」を運用。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康経営に取り組む企業数拡大に取り組むと共に、効率的かつ効果的な健康経営が実施される施策を検討し実施。その中で、主観的Well-beingに関連する指標であるアブセンティーズム、プレゼンティーズム、ワーク・エンゲイジメント等についての企業の取組状況に関してより詳細に回答を求めるよう設問を見直し、それらと企業経営との関係を分析する。</li> </ul>	<p>【R4】7.5億円の内数</p> <p>【R5】8.8億円の内数</p>
34	経産省	女性活躍度調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の女性活躍推進に関する取組や成果の実態把握を目的とした「女性活躍度調査」を実施。当該調査を活用し、「なでしこ銘柄」を選定。令和3年度は上場企業のうち538社が回答。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性がいきいきと活躍する企業を「なでしこ銘柄」として選定することで、企業の人材戦略への関心を高め、働く人のWell-beingの実現を図っていく。</li> </ul>	<p>【R4】-</p> <p>【R5】-</p>
35	国交省	住生活総合調査	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約10万世帯を対象に、居住者の現在の住まいに対する満足度、今後の住まい方の意向などの、住生活全般に関する実態や居住者の意向・満足度等を総合的に調査。5年ごとに実施。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は令和5年度実施予定。</li> </ul>	<p>【H30】3.3億円の内数</p> <p>【R4】-</p> <p>【R5】3.8億円の内数</p>

36	国 交 省	新たな国土形成 計画の策定のため の調査	<p>【現状】 人々が安心して暮らし続けることができる圏域の姿である「地域生活圏」の実現に向けて、複数の地域を抽出し、通勤・通学、買い物、医療等に関する移動手段、デジタルによるサービス利用等の状況について調査するとともに、デジタルとリアルの融合に向けた検討等を実施。</p> <p>【今後】 引き続き、地域生活圏の形成に向けた調査を実施予定。</p>	<p>【R3】 0.3億円の内 数</p> <p>【R4】 0.14億円</p> <p>【R5】 0.35億円</p>
37	国 交 省	旅行・観光消費 動向調査	<p>【現状】 調査対象者のうち、直近の旅行にて観光目的の国内宿泊旅行をした者に対して、その旅行の満足度などを調査。</p> <p>【今後】 観光施策等に活用するための基礎資料を得ることを目的として、引き続き調査を実施予定。</p>	<p>【R4】 6.7億円の内 数</p> <p>【R5】 6.7億円の内 数</p>
38	国 交 省	国民意識調査 (国土交通白 書)	<p>【現状】 白書のテーマにより国土交通分野に関して国民への意識調査を実施。主な質問項目は「二地域居住・地方移住への関心」(R3)、「お住まいの地域の生活環境の重要度と満足度」(R4)等。</p> <p>【今後】 白書のテーマによるため未定。</p>	<p>【R4】 約0.08億円の 内数</p> <p>【R5】 約0.08億円の 内数</p>

39	国 交 省	観光白書	<p>【現状】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光に関する行動や動向が変化したのかを把握。</p> <p>【今後】 白書のテーマによるため未定。</p>	<p>【R4】0.21億円の内数</p> <p>【R5】0.21億円の内数</p>
40	環 境 省	地域循環共生圏 創造の推進のための総合評価指標 検討委託業務	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度より開始した、地域の環境、社会、経済を総合的に評価する指標および分析ロジックの検討事業。令和2年度は、各種統計データを用いた客観的指標と、インターネットアンケートを用いた主観的指標（満足度）の相関関係を統計的に分析し、総合的な指標を算出する分析モデルを構築した。</li> <li>インターネットアンケート対象30,000サンプルについて、全国約1,700市町村を地域の特徴ごとに整理した40の地域類型で分類し、満足度を示す主観的指標を導きだした。アンケートでは「満足度」、「優先度」、「ライフスタイル」の3つの項目について質問を行った。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の脱炭素化に資する地域循環共生圏の創造に係る指標の検討を行う。</li> </ul>	<p>【R4】8億円の内数</p> <p>【R5】8億円の内数</p>
41	環 境 省	気候変動適応計画の進捗状況の把握・検討	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「気候変動適応」に関して国民への定着・浸透の度合いを測る中長期的な指標を設定。</li> </ul> <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画の中間年及び最終年に調査を実施する予定。</li> </ul>	<p>【R4】8.1億円の内数</p> <p>【R5】7.3億円の内数</p>